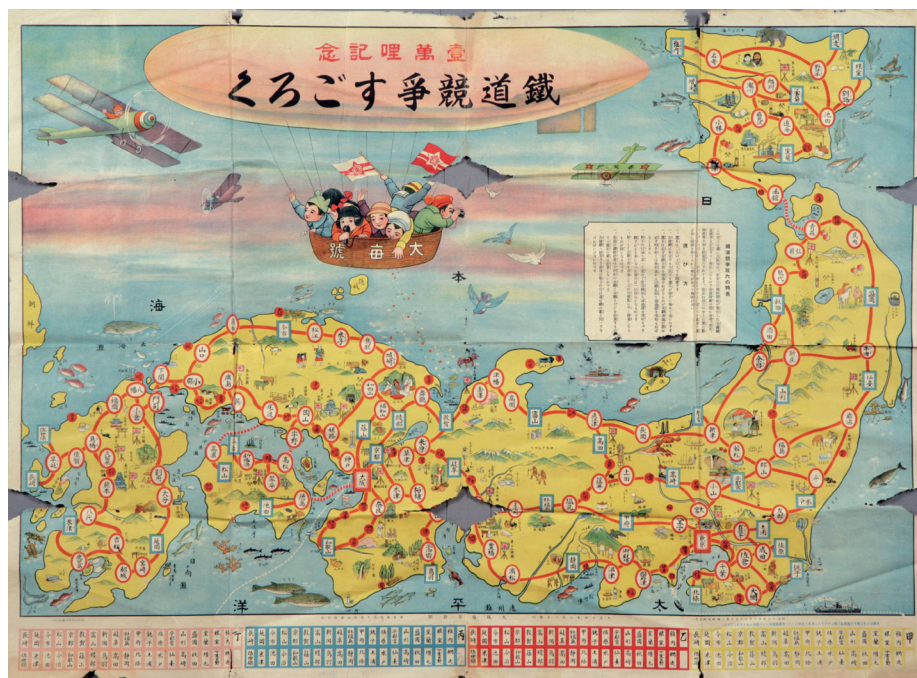


産業の発展と鉄道の建設（鉄道競争すごろく）



* 津田家文書（追加）653

「大阪毎日新聞第19943号附録 壱万哩記念 鉄道競争すごろく」

解説

日清・日露戦争のころ、日本は産業革命を迎えました。鉄道網の整備は、この産業の発展と軌を一にしています。

1889（明治22）年に官営の東海道線が全通し、民営の鉄道も日本鉄道をはじめ全国各地に建設されていきました。日清戦争後には国内の主要幹線がほぼ完成しています。1906（明治39）年には鉄道国有法により、民営の幹線鉄道は、経営の一元化による輸送の効率化と軍事輸送の強化を目的として国有化されました。こうして鉄道網は、道路網と共に、日本の経済発展の基盤となりました。

写真左のすごろくは、1925（大正14）年、鉄道の営業距離が1万マイルを超えた記念に大阪毎日新聞と東京日日新聞の両社がおこなった「全国鉄道競争」をゲーム化したもので、大阪毎日新聞のお正月の付録としてつけられたものです。説明によると、さいころを振って、一番早く全国各地の主要な駅を回って帰った者が勝ちとなっています。当時の主要な路線、駅名、各地の特産物、名所、軍事的要衝などが書き込まれており、洋服に身を包んだ子どもたちの楽しそうな笑顔が印象的です。新しく鉄道が建設され、鉄道の距離が伸びていくことが、産業発展の象徴であった時代の雰囲気がよく伝わってきます。



* 鉄道敷設に関する資料としては、三村家文書の中に鉄道建設工事の写真や鉄道開通の記念絵はがきなどがあります。また、行政文書 県庁戦前A土木の鉄道関連の文書には、鉄道建設に関する図面が多数含まれています。右は三村家文書34-11「木与付近鉄道工事関係写真（現阿武町）トンネル工事」（昭和5～6年頃カ）